

2020年1月7日

国立大学法人徳島大学長 野地澄晴 殿
教員業績評価委員会委員長殿

徳島大学教職員労働組合
中央執行委員長 齊藤 隆仁

心理相談業務の業績評価ポイントの改善の申し入れ

日頃より徳島大学の充実発展のためにご尽力されていることに敬意を表します。

さて、総合科学部教員の組合員より、「心理相談」業務の業績評価ポイントについて、下記の通り、改善の申し入れがありました。

現在の教員業績評価制度では、「心理相談」のポイントは、「4（重要度）×1（貢献度）×業務時間÷1,000」という異常な低ポイントとなっております。同業務にかかる手間は、準備等を含めて、授業とほぼ変わらないため、1,000分の1をかけるのをやめ、授業と同等のポイントが付くように改善してもらいたいとのことです。

なお、病院の「診療活動」につきましても、同様に基礎点に1,000分の1をかけることとなっております。心理相談についてもこれとの類推から1,000分の1をかけることとなったのかもしれませんが、診療活動につきましては、100ポイントを上限とする「基礎評価」があり、診療活動の時間はそれに対する「付加評価」という位置づけになっております。心理相談につきましては、対応する「基礎評価」は存在しないため、診療活動からの類推は成立しないものと考えます。

心理相談の業績評価ポイントの改善につき、よろしくご審議ください。

記

「心理相談」の業績評価ポイントを、 $[A \times B \times C]$ とすることを求めます。
(ただし、A=重要度：4、B=貢献度：1、C=相談時間。)

以上